

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：34319
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20520263
研究課題名（和文） 18・19 世紀イギリス植民地支配における科学的探究とロマン主義文学
研究課題名（英文） Scientific Exploration under British Colonialism and Romantic Literature in the 18th and 19th Centuries
研究代表者 勝山 久里
（京都造形芸術大学・芸術学部・教授）
研究者番号：00351362

研究分野：英文学
科研費の分科・細目：文学 英米・英語圏文学
キーワード：英米文学・比較文学・西洋史・東洋史

1. 研究計画の概要

(1) ロマン主義文学を、ヨーロッパ帝国支配、植民地支配との関わりの中で捉えることによって、1770年から1830年の間に書かれた文学、批評書、この間になされた講演の再評価を行う。

(2) 18・19世紀イギリス帝国支配の新しいシステムによって強力に形成されつつあった科学的知の体系を、ロマン派文学がどのように取り込み、またそれに対峙したのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1) 当時なされた様々な航海の記録を通して、普遍的かつ有益な知の強力な形成が、当時のイギリスの航海、交易の拡大に如何に深く根ざしていたかを分析した。

(2) 『進化論』を著したCharles Darwinの祖父であり、植物学者、発明家にして詩人のErasmus Darwinの詩作品、*The Botanic Garden*(1789-91)を詳細に読み解くことを通して、彼が成した文学と科学的探究の融合という一つの新しい視座が、Coleridge、Wordsworthなどの広範なロマン主義文学者に与えた影響を分析した。

(3) Sir William Jones が創設したアジア協会の年刊誌 *the Asiatic Research*、の分析を進め、アジアの歴史、芸術、言語、文化等多岐渡る分野の調査報告を行った Jones の著書を通して、アジアにおける帝国の人文、科学的な知の探求という視点からも植民地支配とロマン主義文学を考察している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

本務校において、学科長の役職についたため、会議や運営業務が増えたが、研究にあてる時間を可能な限り確保するよう努力した。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 2012年夏季に予定されている国際学会において、オリエンタリズムがロマン主義文学に与えた影響とその意義をテーマに研究発表を行う準備を進めている。

(2) William Jonesが帝国のアジアにおける植民地支配に多大な収益をもたらした点に新たな東洋学とロマン主義文学の展開を促した点に焦点を当て、探検家の日記、報告書、様々な旅行記、新聞、雑誌記事と照らし合わせながら、アジアにおける植民地支配、科学的探究

とロマン主義のかかわりを詳細に分析し、国内外の関連学会において研究発表を行い、この分野に関心を持つ研究者と学際的な視座から意見交換を行う。

(3) 今まで収集してきた資料を、今一度、整理・分類し、文学研究・歴史研究・文化史研究を結ぶデータベースの完成を目標としたい。最終段階で、資料収集のため、再度、海外の大学図書館への出向くことも予定している。同時に過去4年間に発表してきた研究発表および論文を集め、部分的に加筆・修正を加えたうえで、一冊の書物『18・19世紀イギリス植民地支配とロマン主義文学』にまとめ、その成果を広く世に問いたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1) 勝山 久里 「イギリス・ロマン主義と生命科学—コールリッジの『生命論』と『文学評伝』—」京都造形芸術大学紀要 GENESIS 査読有 第14号 2010年 pp. 244-251

(2) 勝山 久里 「科学的探究とロマン派文学：エラズムス・ダーウィンの『植物園』(1789-91年)」京都造形芸術大学紀要 GENESIS 査読有 第13号 2009年 pp. 83-90

[学会発表] (計2件)

(1) 勝山 久里 「ロマン主義と生命科学—コールリッジの『生命論』と『文学評伝』」関西コールリッジ研究会 第147回例会 2010年9月27日 同志社大学

(2) 勝山 久里 「科学的探究とロマン派文学：Erasmus Darwinの *The Botanic Garden* (1789-91)」関西コールリッジ研究会 第140回例会 2008年11月22日 同志社大学